



(須磨)

今回の調査は、都市計画道路須磨中央幹線街路築造工事に伴う事前調査である。当初は従来から付近で調査してきた天神町遺跡の名を踏襲したが、遺跡の年代が異なるため、その地名をと

兵庫・行幸町遺跡

みゆきちよう

- 1 所在地 兵庫県神戸市須磨区行幸町三丁目
- 2 調査期間 第一次調査 二〇〇〇年(平12)七月～一〇月
- 3 発掘機関 神戸市教育委員会
- 4 調査担当者 西岡巧次・阿部 功
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 飛鳥時代～奈良時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

行幸町遺跡は、神戸市の市街地が形成された狭隘な海岸平野の西端を流れる千守川の扇状地の中央、海岸段丘に接する傾斜地の標高一五～一七mに占地している。

つて行幸町遺跡第一次調査とした。今回の調査地の北側には、近世の西国街道が東西に通る。また、古代の山陽道もほぼこれと同じルートであったと推定されており、その痕跡が検出されることも予想された。

検出した遺構は、調査地北西部から南東部にほぼ等高線に沿って掘られた溝SD〇三、その埋没後に現在の西国街道にほぼ平行して掘られた東西溝SD〇二、性格不明の土坑などである。

SD〇二は幅一・四～二・二m深さ四〇cmを測る。被覆土内から土師器椀片が出土し、八世紀初頭頃には開削されたと考えられるが、溝の残存状況は浅く、出土遺物もわずかであるため、存続年代は不明である。溝の北側には土留め杭を設け、盛土などの道路基盤を造成していた可能性もある。

木簡は、SD〇三東部の溝埋没土下層上面で須恵器杯蓋とともに一点出土した。SD〇三は、二段に掘り込まれた素掘り溝で、中段に幅五〇～一五〇cmの犬走り状の平坦面を一部で残している。溝の幅は上端で三・八～六・〇m深さ一・一～一・四mを測る断面台形の溝である。溝の下層及び溝底からは、七世紀中頃の須恵器・土師器や性格不明の木材片が出土している。以上の遺構検出状況から、木簡の投棄年代は、SD〇三が掘られ一時期埋没した七世紀後半から、それが廃され、古代山陽道の南側溝と考えられるSD〇二が設けられる八世紀初め頃までの間と推定される。

(1) [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] 412×37×10 011

大型の完形木簡であるが、習書及び重ね書きのみで内容は不明である。裏面には墨痕は見出せない。

(西岡巧次)



木簡研究 第二二二号

巻頭言—最近の木簡を取り巻く状況に思う— 田辺征夫

一九九九年出土の木簡
概要 平城宮跡 西隆寺跡 阿弥陀浄土院跡 平城京跡左京一条三坊十三坪 旧大乘院庭園 奈良町遺跡 上宮遺跡 長岡京跡 平安京穀倉院跡 六波羅政庁跡 平安京跡右京五条一坊六町 難波宮跡 大坂城跡 池島・福万寺遺跡 吉井遺跡 時友遺跡 明石城武家屋敷跡 姫路駅周辺第四地点遺跡 龍野城跡 市辺遺跡 宮内堀脇遺跡 萩原遺跡 柿布ヶ森遺跡 雲出島貫遺跡 山の神遺跡 中村遺跡 水守遺跡 元鳥遺跡 千代南原遺跡第七地点 香川・下寺尾遺跡 芝罘町遺跡 入谷遺跡 水戸藩徳川家小石川屋敷跡 西町遺跡 浅草跡 前六供遺跡 荒井猫田遺跡 江平遺跡 大日南遺跡 市川橋遺跡 跡 山王遺跡 新田遺跡 柳之御所遺跡 志羅山遺跡(1) 志羅山遺跡(2) 山田遺跡 十三湊遺跡 高塚遺跡 寺中遺跡 堅田B遺跡 城跡(1) 福井城跡(2) 観法寺遺跡 畝田・寺中遺跡 福井高岡町遺跡 須田藤の木遺跡 東木津遺跡 手洗野赤浦遺跡 八塚C遺跡 道場I遺跡 竹直神社遺跡 箕輪遺跡 馬越遺跡 大武II遺跡 馬見坂遺跡 発久遺跡 妻ノ神遺跡 野中土手付遺跡 船戸二の丸跡 中倉遺跡 大御堂廃寺 大坪遺跡 喜時雨遺跡 岡山城東禅寺・黒山遺跡 土居遺跡 郡山城跡 萩城跡 周防国府跡 跡 長安寺廃寺跡 飯塚遺跡 徳島城下町跡 元岡遺跡群 今山遺跡 一 九七七年以前出土の木簡(二二二)
奈良・飛鳥京跡
釈文の訂正と追加(三)
袴狭遺跡(一三・一四・一六・一七・二〇号) 湯ノ部遺跡(一九号)
(一七号) 屋代遺跡群(二八号) 前橋城遺跡(二九号) 矢主遺跡
(一七号) 洲崎遺跡(二二号) 福井城跡(二〇号) 磯部カン
ダ遺跡(一八号) 井上薬師堂遺跡(七号)
帳簿と木簡—正倉院文書の帳簿・継文と木簡—
山口英男
木簡撮影概説—表現しにくい文字の撮影—
杉本和樹
書評 鬼頭清明著『古代木簡と都城の研究』
北村優季
森公章著『長屋王家木簡の基礎的研究』
平石 充

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円